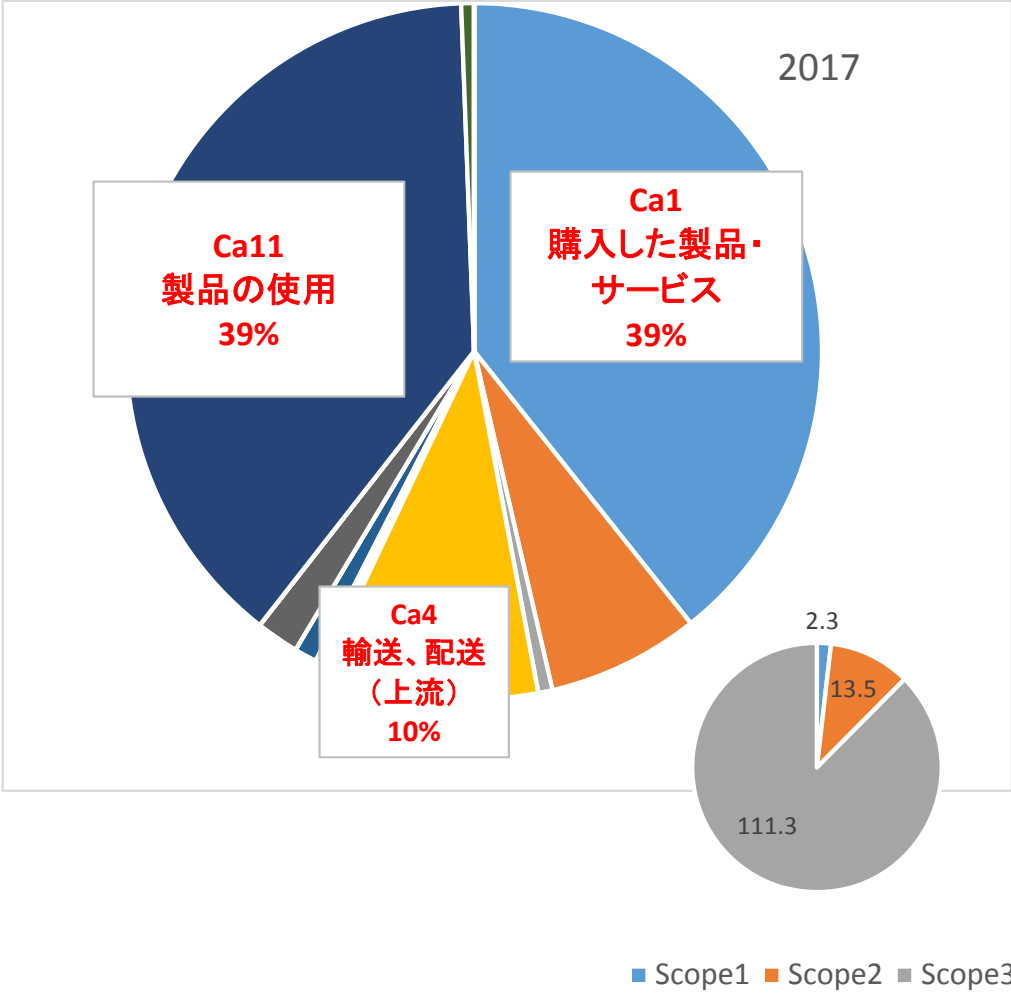


ヤマハ株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none">● 業種：製造業● 事業概要：楽器(ピアノ、電子楽器、管・弦・打楽器等)、音響機器(オーディオ、業務用音響、情報通信等)、電子部品、FA機器、ゴルフ用品、リゾート事業 等● 事業規模：連結売上高 4,330億円(2018年3月期)
2.削減目標案	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み> 削減目標：2030年に2017年比で32%削減 取り組み：購買電力を再生可能エネルギーにシフト</p> <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み> 削減目標：2030年に2017年比で30%削減など 取り組み：カテゴリー11、4を主体に数値目標を掲げて削減アクションプランを実行</p>

ヤマハ株式会社

項目	内容	
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2・3の排出量の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE1 : 2.3万[tCO₂]
	 <p>2017</p> <p>Ca1 購入した製品・サービス 39%</p> <p>Ca11 製品の使用 39%</p> <p>Ca4 輸送、配送(上流) 10%</p> <p>2.3</p> <p>13.5</p> <p>111.3</p> <p>■ Scope1 ■ Scope2 ■ Scope3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE2 : 13.5万[tCO₂]
		<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE3 : 111.3万[tCO₂] <p>目標の対象セクター : 全て(特にCAT4,CAT11で大幅削減を目指す)</p>

ヤマハ株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"> ● リスク：将来的に原材料調達、特に希少木材の調達が困難になることにより特定の製品の生産ができなくなる ● リスク：一部の生産拠点は河川の近くにあるため、豪雨や台風により操業ができなくなる可能性がある ● 機会：演奏時にCO2を発生しないアコースティック楽器が見直され、市場が拡大する。 ● 機会：脱炭素化社会の進展に寄与する製品（Web会議システム、水素ディテクタ、熱伝素子等）の需要が拡大する。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会性のある削減目標を設定し、ステイクホルダーの期待に応える為SBTに沿った目標を設定 ● 野心的な削減目標を掲げることで、再生可能エネルギーへの転換を推進したい

ヤマハ株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● 環境部門で目標案を検討、担当役員の承認を得た上で、中期経営計画に盛り込む。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● 再生可能エネルギーの段階的導入の際に、コストとバランスを取りながら推進していくための戦略検討。● Scope3のカテゴリ11の削減目標の達成のために、どの商品群でどの程度の削減をするかの割付。